



■(上)松島■(下)象潟九十九島



○『硯澤(すずりさわ)』の意義
松尾芭蕉の登場により、もつとも美しい俳諧の世界が、江戸時代に開花します。この芭蕉が旅から旅への人生を送ったことは有名なことと思います。
しかし、元禄7年(1694)10月12日に、芭蕉は大坂で死んでしまします。『おくのほそ道』などの名作を残した芭蕉でしたが、ここでひとつの時代が終わりました。

今回の展示内容を企画立案した、都留文科大文学部近世文学ゼミの学生の皆さんに、展示解説をしていただきます。
日時 毎週土・日曜日
10月12時、13時、15時

ミュージアムトーク

この紀行文は、芭蕉没後に、芭蕉敬慕を表明した古い方の作品です。しかも、文学的趣向をこらした内容になっています。松島・象潟に焦点を定めた内容、和歌・漢詩文の駆使と、本作品の魅力はつきません。
大学生による

MUSEUM ミュージアム都留 & 増田誠美術館

開館時間 9時～17時
※増田誠美術館は16時30分まで
観覧料 一般 300円(210円)
高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)
※()内は、20名以上の団体料金です。
休館日 月曜日、第3火曜日
祝日の翌日
ミュージアム都留
問合せ先 45-8008

以後、滑稽味のつよい作品が流行する享保時代が到来します。この時代を経過して、ふたたび芭蕉が注目される時代がやってくるが、そんな頃、駿河・甲斐両所に居を定めていた山口黒露は、芭蕉の『おくのほそ道』を慕って、東北地方への旅に出るのです。
俳壇にふぎあれた芭蕉復古運動の実践として試みられたこの旅の記録は『硯澤』と命名されます。

ミュージアム都留企画展

「甲州俳諧展 ～おくのほそ道を辿った甲斐俳人～」

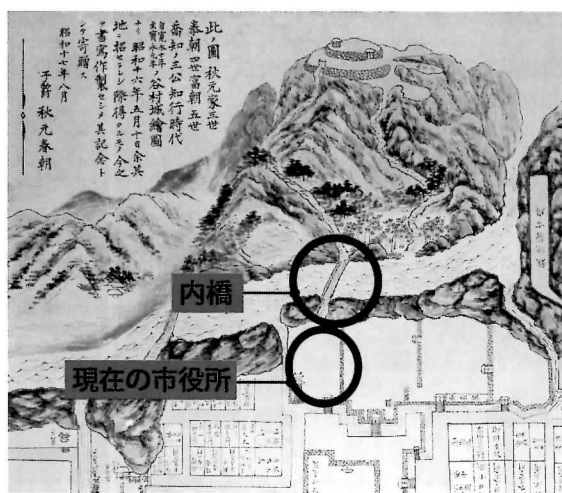
2月13日(日)まで

Report

勝山城の調査を終えて — 内橋調査編 —

今回は、勝山城の内橋の調査について報告したいと思います。内橋とは、勝山城と谷村城(現都留市役所・谷村第一小学校)を結ぶ橋のことです。昔の絵図などで確認することができます。『両谷村』によれば、正徳13(1723)年に川の水が満水し、流されたと伝えられ、現在は確認することはできません。

今回の学術調査の一環で、桂川岸壁の調査を実施し、内橋がどこに架けられていたか確認を行いました。過去、地元文化財審議委員の調査で勝山城側に橋脚と思われる石積みが残されているという報告があり、川岸を確認したところ石積みの形状をなした遺構を確認することができました。対岸には石積みは確認できず、どのような形態で存在していたかは明らかになりませんでした。桂川へいったん降りてから川を渡っていた可能性が明らかになりました。この地点から焔硝蔵へ繋がるルートも確認され、調査地点は内橋の推定地として可能性が高いと考えられます。



■谷村城絵図に描かれた内橋

増田誠美術館

増田誠美術館企画展「季節の情景 一秋から冬へ」

フランス各地の風景を描いた作品から、秋から冬にかけての季節をテーマにした油彩画・スケッチを展示しています。ぜひ、ご覧ください。

会期: 2月27日(日)まで

開館時間: 9時～16時30分

会場: 増田誠美術館(ふるさと会館2階)

次回企画展のご案内

3月5日(土)からは、生まれ故郷の都留や北海道の風景や祭りを描いた作品を展示します。



作品介绍

『ウィーンの雪景色』(年代不詳)
油彩画8号F